

平成11年度北海道観光入込客数調査の概要

平成12年6月26日
北海道経済部観光局

本調査は、「全国観光統計基準」により道が定めた「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、道内212市町村が行った調査結果を集計したものです。

記

1 北海道における観光入込客実人数

・観光入込客数の実人数	5,149万人	(前年度対比	103.0%、	148万人増)
うち道外客	635万人	(同	103.1%、	20万人増)
うち道内客	4,515万人	(同	102.9%、	128万人増)

実人数とは： 1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えること。

2 北海道における観光入込客の延べ人数(212市町村の合計)

(1)観光入込客延べ人数(総数)	14,939万人	(前年度対比	103.2%、	460万人増)
うち道外客	4,822万人	(同	103.8%、	174万人増)
うち道内客	10,117万人	(同	102.9%、	286万人増)

延べ人数とは： 1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合、それぞれの市町村でカウントされるため5人と数えること。

(2)圏域別

・道央圏	8,088万人	(前年度対比	104.3%、	構成比	54.1%)
・道北圏	2,218万人	(同	102.6%、	同	14.9%)
・道南圏	1,489万人	(同	102.5%、	同	10.0%)
・オホーツク圏	1,198万人	(同	98.9%、	同	8.0%)
・釧路根室圏	1,046万人	(同	105.2%、	同	7.0%)
・十勝圏	901万人	(同	99.6%、	同	6.0%)

(3) 要因・背景

- ・個人消費の伸び悩み
 - ・春から夏にかけての大雨・長雨などの天候不順
- などのマイナス要因があったものの、その一方で
- ・大型複合商業施設（小樽マイカル）の集客効果
 - ・ラベンダー、丘陵風景など北海道らしい景観に対する根強い人気
 - ・テレビドラマや映画のロケ地人気
 - ・留萌線の「すずらん号」や釧網線の「冬の湿原号」などのSL運行
 - ・積極的な観光プロモーション活動の展開
- などにより、全体として前年度に比べ増加になったものと思われる。

3 訪日外国人の来道者数

(1) 来道者数(実人数) 20万4,200人(前年度対比 119.9%、33,900人増)

(上位国)

・台湾	12万1,100人	(同)	129.2%、27,400人増)
・香港	2万900人	(同)	137.5%、5,700人増)
・韓国	1万7,800人	(同)	164.8%、7,000人増)
・米国	7,400人	(同)	91.4%、700人増)
・ロシア	6,400人	(同)	112.3%、700人増)

(2) 要因・背景

【台湾客】

- ・依然として台湾での「北海道観光ブーム」が持続

【香港客】

- ・北海道の冬に対する人気が高く、さっぽろ雪まつりには多数来道
- ・さっぽろ雪まつり期間中に航空各社がチャーター便を運行

【韓国客】

- ・韓国の国内経済の好転
- ・韓国で評判となった日本映画の舞台である小樽や札幌の人気の高まり

(3) 来道外国人宿泊延べ人数 63万2,159人泊

(前年度対比 123.6%、120,778人泊増)

北海道観光入込客数調査の内容と留意点

1 観光入込客数調査について

本調査は、全国観光統計基準により道が定めた「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、道内212市町村が調査を行った結果を集計したものです。

2 調査内容

(1) 観光入込客数

ア 観光入込客数【延べ人数】

道内212市町村の観光入込客数を集計した観光入込客の延べ人数

延べ人数とは： 1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合、それぞれの市町村でカウントされるため5人と数える。

イ 観光入込客数【実人数】

道内212市町村の観光入込客数や観光動態調査などにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数とは： 1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数える。

(2) 来道観光客数

平成11年度の交通機関（航空機、フェリー、鉄道）の下り便の輸送実績を基に「来道観光客動態調査」などにより推計した来道観光客の実人数。

(3) 訪日外国人入込客数

平成11年度に、北海道を訪れた外国人について、「宿泊施設調査」や「動態調査」などから推計した訪日外国人入込客数。

3 利用上の留意事項

(1) 今回の調査は、平成11年度（H11.4～H12.3）を基に行っており、「春」は4・5月、「夏」は6月～9月、「秋」は10月・11月、「冬」は12月～3月として、取り扱っております。

(2) 市町村ごとの観光入込客数調査は、実人数を推計していますが、「支庁の計」、「圏域の計」は延べ人数となっております。

(3) 昨年度は、観光客入込数5万人以上見込まれる202市町村が調査を行っていましたが、今年度より全道212市町村が調査を行っております。

(4) 新規10町村につきましては、10年度の実績を11年度の同数として取り扱っております。

(5) 虻田町、壮瞥町の下期の数は、有珠山噴火の影響により調査不可能なため、10年度下期の実績を11年度下期と同数として取り扱っております。

(6) 数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

観光入込客数調査の概要

1 観光入込客数（延べ人数）

（1）概況

平成11年度の観光入込客の総数は、延べ1億4,939万人で、前年度に比べ3.2%の増となっております。

個人消費の伸び悩みや、春から夏にかけての天候不順などのマイナス要因があったものの、小樽の大型複合商業施設の集客効果やラベンダーなど北海道らしい景観に対する根強い人気に加え、テレビドラマや映画ロケ地人気やSLの運行、さらには、官民一体となった宣伝誘致活動の展開などにより、全体として3.2%の増加になったものと思われま。

（2）調査結果の前年度比較

総数

平成11年度の道内212市町村における観光入込客の総数は、延べ1億4,939万人で、前年度に比べ3.2%（460万人）の増となっております。

道外・道内客別

道外客は、4,822万人で前年度に比べ3.8%（174万人）の増、道内客は、1億1,117万人で前年度に比べ2.9%（286万人）の増となっております。

日帰り・宿泊客別

日帰り客は、1億1,953万人で前年度に比べ3.8%（433万人）の増、宿泊客は、2,986万人で前年度に比べ0.9%（27万人）の増となっております。

【平成11年度観光入込客数（延べ人数）】

区分	観光入込客数	前年度対比	増減数	構成比
212市町村総数	14,939万人	103.2%	460万人	100.0%
道外客	4,822万人	103.8%	174万人	32.3%
道内客	10,117万人	102.9%	286万人	67.7%
日帰り客	11,953万人	103.8%	433万人	80.0%
宿泊客	2,986万人	100.9%	27万人	20.0%

月別・季節別

月別にみると、7月、3月では前年を下回りましたが、これら以外の各月は前年を上回っております。

季節別にみると、前年同期に比べ春は5.6%の増加、夏は2.0%の増加、秋は7.3%の増加、冬は2.0%の増加となっております。

【月別・季節別観光入込客数（延べ人数）】

区分	春		夏				上期計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月別	692	1,474	1,452	2,154	2,655	1,577	10,004
構成比	4.6	9.9	9.7	14.4	17.8	10.6	67.0
前年度対比	105.1	105.8	103.7	99.3	104.2	100.6	102.7
季節別	2,165		7,839				10,004
構成比	14.5		52.5				67.0
前年度対比	105.6		102.0				102.7

区分	秋		冬				下期計	年間合計
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
月別	1,335	665	579	748	889	719	4,935	14,939
構成比	8.9	4.5	3.9	5.0	6.0	4.8	33.0	100.0
前年度対比	108.0	105.9	103.5	102.6	106.5	95.3	104.1	103.2
季節別	2,000		2,935				4,935	-
構成比	13.4		19.6				33.0	-
前年度対比	107.3		102.0				104.1	-

圏域別

圏域別に見ると、道央、道北、道南、釧路・根室圏では、前年度を上回っておりますが、オホーツク、十勝圏では減、又は微減となっております。

【圏域別観光客入込客数（延べ人数）】

圏域別	観光客入込客数	前年度対比	増減数	構成比
道央	8,088万人	104.3%	334万人	54.1%
道北	2,218万人	102.6%	56万人	14.9%
道南	1,489万人	102.5%	36万人	10.0%
オホーツク	1,198万人	98.9%	14万人	8.0%
釧路・根室	1,046万人	105.2%	51万人	7.0%
十勝	901万人	99.6%	3万人	6.0%
合計	14,939万人	103.2%	460万人	100.0%

【圏域別の状況】

- ・道央： テレビドラマのロケ地人気や、S L運行、昨年3月に新設された大型複合商業施設の集客効果などとともに、航空運賃の低廉化などにより札幌市を訪れた観光客が統計を取り始めて以来最高を記録したことなどにより増加となっております。
- ・道北： ラベンダーの根強い人気や映画のロケ地人気の影響、夏季の利尻・礼文の入込増、キャンプ場や温泉施設などの観光施設の整備などにより、増加となっております。
- ・道南： 公園施設の新設や道の駅の開設、さらに新白糸トンネルの開通などにより、増加となっております。
- ・オホーツク： 流氷観光は根強い人気となっているものの、通年運行だった航空路線が季節運行になったこと、観光施設などの入込み減、スキー場の休業などにより、前年を下回っております。
- ・釧路・根室： 前年に比べ比較的温暖な気候に恵まれたことに加え、航空路線（釧路～仙台）の再開、S L冬の湿原号の運行、大規模な全道・全国大会などにより、増加となっております。
- ・十勝： 季節はずれの大雪による影響や大規模な全道・全国大会の減少などにより、前年をわずかに下回っております。

2 観光入込客数（実人数）

道では、道内212市町村が実施している「観光入込客数調査」と道が実施している「観光動態調査」を基に観光入込客数の実人数を推計しています。

平成11年度の観光入込客総数（実人数）を調査結果から推計すると5,147万人となり、前年度に比べ3.0%の増加となりました。

これを道外・道内客別にみると、道外客は635万人（構成比12.3%）で前年度に比べ3.1%増加しており、道内客は4,512万人（構成比87.7%）で2.9%の増加となっております。

また、日帰り・宿泊別では、日帰り客は3,583万人（構成比69.6%）、宿泊客は1,564万人（構成比30.4%）となっております。

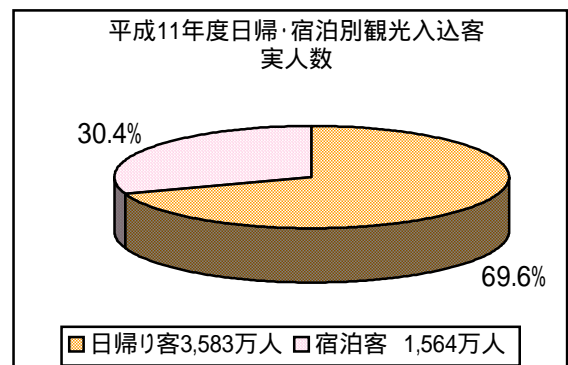
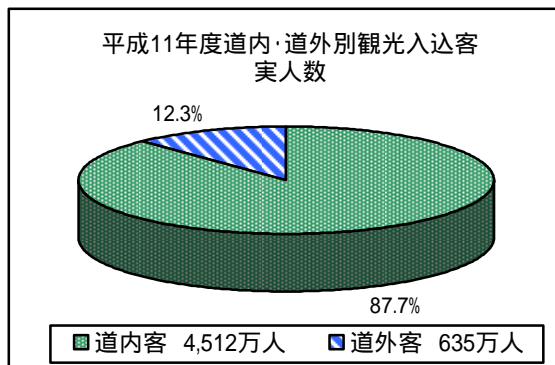
平成11年度観光入込客数（実人数）

区 分	観光入込客数	構成比	左の内訳	
			日帰り客	宿泊客
道 外 客	635万人	12.3%	3万人	632万人
構成比	100.0%		102.4%	99.5%
前年度対比	103.1%		102.4%	103.1%
道 内 客	4,512万人	87.7%	3,580万人	933万人
構成比	100.0%		79.3%	20.7%
前年度対比	102.9%		103.3%	101.6%
合 計	5,147万人	100.0%	3,583万人	1,564万人
構成比	100.0%		69.6%	30.4%
前年度対比	103.0%		103.3%	102.2%

季節別

区 分	春	夏	上期計	秋	冬	下期計	合計
観光入込客数(実人数)	749万人	2,683万人	3,432万人	675万人	1,040万人	1,715万人	5,147万人
構成比	14.6%	52.1%	66.7%	13.1%	20.2%	33.3%	100.0%
前年度対比	104.4%	102.2%	102.7%	107.9%	100.8%	103.5%	103.0%

千人以下四捨五入のため、合計が合致しない場合があります。
構成比は人単位で計算しています。



来道観光客に関する調査の概要

1 概況

平成11年度の交通機関（航空機・フェリー・鉄道）の下り便の輸送実績を基に推計した来道観光客数は、635万人となっており、前年に比べ3.1%の増加となっております。

季節別にみると、夏（6月～9月）が347万人で全体の54.9%を占め、次いで、冬（12月～3月）が126万人（構成比19.4%）、春（4月～5月）が86万人（同13.6%）、秋（10月～11月）が76万人（同12.1%）の順となっております。

2 交通機関別の状況

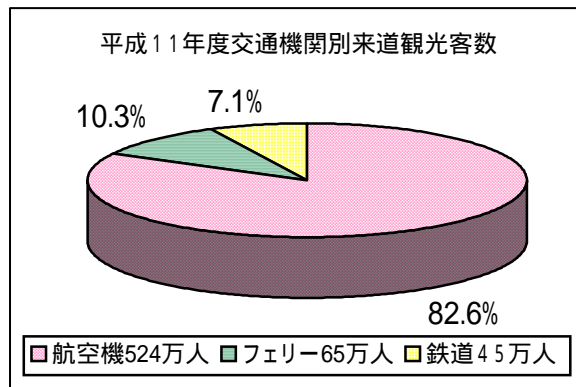
平成11年度の来道観光客数を交通機関別にみると、航空機が524万人（構成比82.6%）と最も多く、次いで、フェリーが65万人（同10.3%）、鉄道45万人（同7.1%）となっております。

前年度と比べると、航空機は5.0%増加しておりますが、フェリー、鉄道については前年度を下回る結果となっております。

平成11年度来道観光客数（交通機関別・季節別）

	区分	合計	構成比	春	夏	秋	冬
合計	来道観光客数	635万人	100.0%	86万人	347万人	76万人	126万人
	構成比	100.0%		13.6%	54.9%	12.1%	19.4%
	前年度対比	103.1%		106.1%	101.6%	104.7%	104.4%
航空機	来道観光客数	524万人	82.6%	68万人	281万人	64万人	111万人
	構成比	100.0%		13.0%	53.6%	12.2%	21.2%
	前年度対比	105.0%		108.7%	103.7%	106.1%	105.4%
フェリー	来道観光客数	65万人	10.3%	9万人	45万人	5万人	7万人
	構成比	100.0%		14.4%	68.4%	7.1%	10.0%
	前年度対比	97.3%		102.5%	95.2%	102.7%	101.1%
鉄道	来道観光客数	45万人	7.1%	8万人	21万人	8万人	8万人
	構成比	100.0%		18.3%	46.7%	17.1%	17.8%
	前年度対比	92.4%		91.9%	90.5%	95.7%	95.1%

千人以下四捨五入のため、合計が合致しない場合があります。
構成比は人単位で計算しています。



訪日外国人の来道者数に関する調査の概要

1 訪日外国人の来道者数（実人数）

（1）概況

平成11年度の訪日外国人の来道者数は、実人数で20万4,200人で、前年度に比べ19.9%の大幅な増加となっております。

（2）国別

国別にみると、台湾が12万1,100人（前年比29.2%増、構成比59.3%）と最も多く、次いで、中国（香港）が2万900人（同37.5%増、10.2%）、韓国が1万7,800人（同64.8%増、8.7%）、米国が7,400人（同8.6%減、3.6%）の順になっています。

台湾では、官民一体となって各種媒体を利用したプロモーション活動・誘致キャンペーンの展開により、「北海道観光ブーム」が持続しており、引き続き順調な伸びとなっております。

また、香港は、北海道の冬に対する人気が高く、札幌雪まつりの期間に航空会社がチャーター便を運航したこともあり、大きな伸びとなっております。

さらに、韓国客は、韓国の経済が好転してきたこともあり、平成10年度の後半から回復基調がみられましたが、平成11年度は、韓国で評判の映画の舞台となった小樽や札幌の人気の高まりなどもあり、大きな伸びとなっております。

【平成11年度訪日外国人の来道者数（実人数）】

（単位：人、％）

区分	アジア							ヨーロッパ		北米		中南米	アフリカ	オセアニア	不明	合計	
	中国	韓国	台湾	中国(香港)	シンガポール	その他	小計	ロシア	その他	米国	カナダ						
春季 (4・5月)	11年度	200	1,900	12,700	1,200	100	250	16,350	700	500	900	50	50	150	2,300	21,050	
	10年度	200	800	9,500	1,500	100	300	12,400	1,000	900	1,100	100	100	50	1,800	17,550	
	前年度対比	100.0	237.5	133.7	80.0	100.0	83.3	131.9	70.0	55.6	81.8	50.0	50.0	100.0	150.0	127.8	119.9
夏季 (6月～9月)	11年度	800	9,000	48,500	4,400	350	1,050	64,100	2,700	2,700	3,200	500	250	200	1,100	5,600	80,350
	10年度	900	4,500	29,900	3,900	250	1,550	41,000	2,300	2,300	3,500	400	200	150	900	5,200	55,950
	前年度対比	88.9	200.0	162.2	112.8	140.0	67.7	156.3	117.4	117.4	91.4	125.0	125.0	133.3	122.2	107.7	143.6
秋季 (10・11月)	11年度	300	2,900	21,600	1,700	200	450	27,150	1,550	1,400	1,150	150	100	100	150	2,050	33,800
	10年度	300	1,800	20,600	1,200	100	800	24,800	900	1,900	1,300	100	400	200	400	2,800	32,800
	前年度対比	100.0	161.1	104.9	141.9	200.0	56.3	109.5	172.2	73.7	88.5	150.0	25.0	50.0	37.5	73.2	103.0
冬季 (12月～3月)	11年度	700	4,000	38,300	13,600	550	1,000	58,150	1,450	2,600	2,150	300	100	50	1,550	2,650	69,000
	10年度	500	3,700	33,700	8,600	1,000	1,000	48,500	1,500	3,000	2,200	150	200	50	1,200	7,200	64,000
	前年度対比	140.0	108.1	113.6	158.1	55.0	100.0	119.9	96.7	86.7	97.7	200.0	50.0	100.0	129.2	36.8	107.8
合計	11年度	2,000	17,800	121,100	20,900	1,200	2,750	165,750	6,400	7,200	7,400	1,000	500	400	2,950	12,600	204,200
	10年度	1,900	10,800	93,700	15,200	1,450	3,650	126,700	5,700	8,100	8,100	750	900	450	2,600	17,000	17,300
	前年度対比	105.3	164.8	129.2	137.5	82.8	75.3	130.8	112.3	88.9	91.4	133.3	55.6	88.9	113.5	74.1	119.9
12年度国別構成比	1.0	8.7	59.3	10.2	0.6	1.3	81.2	3.1	3.5	3.6	0.5	0.2	0.2	1.4	6.2	100.0	

2 訪日外国人の来道宿泊者数（延べ数）

（1）概況

平成 11 年度の訪日外国人の来道状況を宿泊者数で見ますと、延べで 632,159 人泊で、前年度に比べ 23.6% の大幅な増加となっております。

【平成 11 年度国別訪日外国人の来道宿泊者数（延べ人数）】（単位：人泊、%）

	アジア							ヨーロッパ					
	中国	韓国	台湾	中国(香港)	シンガポール	その他	小計	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	その他	小計
11年度	7,675	28,384	410,597	64,380	4,200	14,370	529,606	11,737	4,077	1,817	4,741	14,040	36,412
10年度	7,012	17,123	308,516	46,573	5,440	17,756	402,420	11,369	3,298	2,145	4,077	15,093	35,982
前年度対比	109.5	165.8	133.1	138.2	77.2	80.9	131.6	103.2	123.6	84.7	116.3	93.0	101.2

	北米		中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計
	米国	カナダ			豪州	その他		
11年度	26,547	3,876	4,922	5,561	3,925	1,287	20,023	632,159
10年度	29,215	2,704	4,466	4,548	3,219	1,469	27,358	511,381
前年度対比	90.9	143.3	110.2	122.3	121.9	87.6	73.2	123.6

（2）月別

月別にみますと、各月とも前年度に比べ増加となっており、特に5月から8月にかけて大きく伸びております。宿泊者の多い月は7・8月の夏季、10月の秋季、2月の札幌雪まつりの開催時期に集中しております。

【月別・季節別訪日外国人の来道宿泊者数（延べ人数）】（単位：人泊、%）

区分	春		夏				上期計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月別	24,387	33,792	48,492	88,964	64,193	50,406	310,234
構成比	3.9	5.3	7.7	14.1	10.2	8.0	49.1
前年度対比	129.1	146.1	156.4	169.1	140.2	128.4	146.5
季節別	58,179		252,055				310,234
構成比	9.2		39.9				49.1
前年度対比	134.9		149.4				146.5

区分	秋		冬				下期計	年間合計
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
月別	79,254	33,309	49,793	30,009	107,652	21,908	321,925	632,159
構成比	12.5	5.3	7.9	4.7	17.0	3.5	50.9	100.0
前年度対比	106.2	100.6	122.7	106.3	105.8	103.1	107.5	123.6
季節別	112,563		209,362				321,925	632,159
構成比	17.8		33.1				50.9	100.0
前年度対比	104.5		109.1				107.5	123.6

(3) 圏域別

圏域別にみますと、道内圏が前年に比べ約26%ほど減少しておりますが、他の圏域は前年度を上回る順調な宿泊者数となっております。

【平成11年度圏域別訪日外国人の来道宿泊者数(延べ数)】

(単位:人泊、%)

	アジア							ヨーロッパ					
	中国	韓国	台湾	中国(香港)	シンガポール	その他	小計	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	その他	小計
道南	425	680	13,769	3,075	333	791	19,073	1,209	228	93	154	362	2,046
道央	5,511	23,601	233,705	59,021	2,819	6,848	331,505	4,023	3,165	1,381	2,914	10,281	21,764
道北	219	1,251	63,343	1,088	706	620	67,227	3,001	241	67	206	770	4,285
オホーツク	128	828	22,759	241	100	130	24,186	317	78	61	325	95	876
十勝	997	1,652	33,771	771	201	5,307	42,699	298	100	91	945	881	2,315
釧路・根室	395	372	43,250	184	41	674	44,916	2,889	265	124	197	1,651	5,126
合計	7,675	28,384	410,597	64,380	4,200	14,370	529,606	11,737	4,077	1,817	4,741	14,040	36,412

	北米		中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計	前年度対比	10年度
	米国	カナダ			豪州	その他				
道南	1,838	176	156	19	178	18	130	23,634	73.6	32,090
道央	19,351	2,827	1,067	653	3,077	651	19,014	399,909	129.5	308,772
道北	1,469	115	58	62	257	98	456	74,027	139.1	53,216
オホーツク	926	192	130	77	199	155	148	26,889	122.4	21,961
十勝	1,762	490	3,290	4,500	63	341	119	55,579	127.4	43,612
釧路・根室	1,201	76	221	250	151	24	156	52,121	100.8	51,730
合計	26,547	3,876	4,922	5,561	3,925	1,287	20,023	632,159	123.6	511,381

(4) 市町村別

市町村別にみますと、1位は札幌市で201,698人泊(前年比27.2%増)で前年度に引き続きトップとなり、2位は前年度3位の登別市で53,011人泊(同45.7%増)、3位は前年度5位の上川町で45,313人泊(同32.6%増)以下、壮瞥町(下期不詳のため暫定値)、阿寒町の順となっております。

(5) 国別・市町村別

宿泊者数の多い上位国を市町村別にみますと、全体としては温泉地を抱える市町村が上位となっており、上位5地区は順位は違いますが、前年度と同じ市町村がランクされております。

札幌市は、北海道の主要都市であり、各地とのアクセスが良いことなどから、各国とも上位になっていると思われま。

【宿泊延べ数の多い上位5ヶ国】

(単位：人泊、%)

順位	国名	宿泊延べ数	前年度対比
1	台湾	410,597	133.1
2	中国(香港)	64,380	138.2
3	韓国	28,384	165.8
4	アメリカ	26,547	90.9
5	ロシア	11,737	103.2

【訪日外国人宿泊延べ数の多い市町村】

(単位：人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	201,698	127.2
2	登別市	53,011	145.7
3	上川町	45,313	132.6
4	壮瞥町	43,262	120.0
5	阿寒町	42,618	105.1

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

(単位：人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	107,154	153.8
2	上川町	43,741	130.9
3	壮瞥町	40,471	100.6
4	阿寒町	39,256	118.1
5	登別市	29,374	158.6

【アメリカの宿泊延べ数の多い市町村】

(単位：人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	14,016	87.1
2	函館市	1,621	72.7
3	帯広市	1,530	242.1
4	千歳市	1,499	56.2
5	登別市	675	78.8

【中国(香港)の宿泊延べ数の多い市町村】

(単位：人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	29,941	144.7
2	登別市	14,140	119.7
3	虻田町	7,061	132.7
4	函館市	1,957	196.9
5	小樽市	1,383	928.2

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

(単位：人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	8,602	145.2
2	登別市	7,540	343.4
3	壮瞥町	2,726	165.1
4	留寿都村	1,505	-
5	帯広市	1,267	338.8

【ロシアの宿泊延べ数の多い市町村】

(単位：人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	2,727	114.7
2	釧路市	1,636	93.7
3	稚内市	1,312	55.6
4	旭川市	1,222	265.7
5	小樽市	1,056	112.0

* 虻田町、壮瞥町は、下期不詳のため暫定値